

4連休に期待すること

7月23日(木)～7月26日(日)に4連休がありましたが、明日からまた、4連休になります。9月21日(月)が敬老の日、9月22日(火)が秋分の日です。連休中は1日の中で家庭生活が中心となります。まずは連休後の水曜日に元気で会えるように規則正しい生活リズムを守り、「命を大切に作る行動」を心がけてください。

熊本地震から復興が進み、道路や鉄道の整備開通が進んでいます。また、新型コロナ対策中ではありますが、Go To トラベルキャンペーン等で阿蘇地域に多くの人や車がやってきます。事故や事件に遭ったり、起こしたりする危険性が増しますのでお互いに用心しましょう。

ところで4連休が終われば9月後半です。学校行事もたくさんあります。みなさんが以下のことができればと期待しています。

- ① 「規則正しい生活リズム」+「命を守る行動」
- ② 中間テストに向け家庭学習時間の大幅な増加
(1日何時間できるでしょうか？自己記録の更新を！)
- ③ 体育大会に向けての準備
(特に3年生リーダーや委員のアイデアを！)
- ④ 祝日に込められた文化の継承

また、4連休中に部活動等で県の選抜や新人戦等に挑戦する人もいます。こちらも新型コロナウイルス対策をしっかりと、実力を発揮してください。



(9月14日:新阿蘇大橋連結しました)

参観授業がありました

9月14日(月)2時間目、3年2組の英語授業を校外から先生をお呼びして参観していただきました。先生方に指導力をさらに高めてもらい、みなさんの英語力を伸ばすためのものです。英語を使って尋ねたり、答えたりする内容でしたが、新型コロナ対策で個人用のパーティションを活用しながらも、グループ活動を効果的に取り入れて、そこで出た内容をいかにしてクラス全体で共有するか、授業後に意見交換が行われました。

私も参観しましたが、授業の様子はもちろん、教室掲示にも担任の先生の思いが溢れていると感じました。グローバル人材の育成のため「英語教育日本一」を掲げている熊本県です。これからのみなさんの頑張りと活躍が楽しみです



(9月14日(月)の2時間目の授業の様子)

豆知識

- ・「秋分の日」・・・昭和23(1948)年に「祖先をうやまい、なくなった人々をしのぶ」日として、秋分の日と改名。日本国民の生活に深く根づく祝日となりました。
- ・「敬老の日」・・・「多年にわたり社会につくしてきた老人を敬愛し、長寿を祝う」日として、高齢者の福祉について関心を深め、高齢者の生活の向上を図ろうという気持ちが込められています。

裏面には中3の生徒がおばあちゃんとの生活を通して気づいた作文を載せています

第二十八回 全国中学生人権作文コンテストより 「待つ」

山口県防府市立桑山中学校3年 澁澤 佳奈実(しぶさわ かなみ)さん

私の祖母は、目があまり見えていません。視界の中心が見えないという目の病気です。私はこの祖母と、週末になるとスーパーに買い物に行きます。スーパーに行くと、祖母が探している品物のところに行きます。そこでは、やはり、祖母の視力では、知りたい品物の情報が読めないことがよくあります。祖母は、ここ最近耳も遠くなっています。ですから、私が文字を祖母の耳の近くで読むのです。すると、いつも「ありがとうございます。」と祖母は言います。祖母は、私のことをとても頼ってくれています。他にもスーパーに行くと困ることがあります。それはお金の支払いです。レジの店員さんから言われる値段が、よく聞き取れないことと、お札や小銭を取り出すのにとっても時間がかかることです。

ある日、こんなことがありました。祖母がレジで、一枚ずつ小銭を財布から出していた時です。祖母の後ろに並んでいた人が、「チッ。」と舌打ちをしたのです。横目で見ると、靴底で床を蹴り、せわしく貧乏揺すりを始めました。祖母の会計が遅くて、イライラしている様子ははっきりと伝わってきます。私は焦り、祖母から財布を預かると、急いでお金を支払いしました。「なぜ、待ってもらえないのか。誰もが同じように素早くお金が払えるわけではないのに。」と、とても悲しい思いをしました。

しかし、別の日、こんなことがありました。その日は特にレジが混んでいました。その時の私には、あまり心に余裕がなかったのだと思います。レジで支払いをする祖母の後ろに、長く列が続いていました。それを見た私は、つい焦ってしまい、一人でお金を払おうとしていた祖母に言いました。「おばあちゃん。もうちょっと急いでよ。」と。すると、祖母の後ろに並んでいた一人のおばあさんが言われました。「そんなに急がんでもいいよ。あんまりあなたのおばあさんを急かさないであげて。」私はその時、気が付きしました。自分がしたことは、前にスーパーで出会った舌打ちをした人と同じだということにです。なぜ、あのよういきつい口調で言ってしまったのか、待つことができなかったのか、自分を責めました。

その日祖母は、いつもの「ありがとうございます。」ではなく「ごめんね。」と言いました。自分の中で、恥ずかしい気持ちと悲しい気持ちが渦巻いていました。私は祖母と一緒に生活することで、大切なことを学びました。それは「待つ」ということです。自分の心に余裕をもって、急かすのではなく、相手を「待つ」ということが大切だということです。誰もが同じようにできるわけではないことに気付かなければなりません。時間がかかる人も当然いるのです。後ろに並んでおられたおばあさんは、その後ゆっくりと会計をされていましたが、誰も急かす人はいませんでした。この、「待つ」ということは高齢の方だけでなく、小さな子どもや障害のある方にも通じるものだと思います。

他にも考えさせられたことがあります。これも会計の時の出来事です。いつものように私が支払いを手伝おうとしました。すると祖母から「一人でもできるよ。」と言われたのです。お金を支払うときの手伝いは、特に頼まれたわけでもなくしていました。この行為は、「おばあちゃんが困っている。」という私の判断や、「早く払わなければ。」という私の焦りからくる行動だったと思うのです。祖母の人権を尊重しての行動ではありませんでした。人の人権を尊重することと、人を手助けすることとは全く違うことに気が付いた瞬間でした。私は自分の思い込みで行動してしまい、親切を祖母に押しつけるような形になっていました。祖母のできることまで、待たずに奪っていたことになります。相手の気持ちをよく考え、お互いに気持ちよく支え合うことが大切なのだと思います。

もう一つ、祖母に教えてもらったことがあります。祖母は、いつも顔を合わせる度に声をかけてくれます。そして、私が何かするとすぐ、「ありがとうございます。」という言葉返してくれます。この声掛けは、気持ちを温かくしてくれます。祖母は、私たち家族にとってもよくしてくれます。でも、私は母に言われないと「ありがとう。」と感謝の言葉を伝えるのを忘れてしまいがちです。感謝の言葉に限らず、挨拶は相手のことを確認し認める行為だと聞いたことがあります。そうならば、相手に感謝の言葉をかけたり、挨拶をするということが、相手の人権を尊重する第一歩ではないかと思いました。それなら私にもできます。人権の尊重と聞くと、何かとても難しいことのように感じていましたが、こんな身近なところでも人権尊重の精神は生かせるのです。私は祖母から、皆がもっている人権を大切にするとヒントを沢山もらいました。このヒントを無駄にしないよう、私にできることを一つずつ実践していきたいと思います。

